

# 生きられた庭



## Le Jardin Convivial

キュレーターによるガイドツアー形式の展覧会  
Curator-Guided Tour as Exhibition

石毛健太 Kenta ISHIGE  
高橋 銃 Sen TAKAHASHI  
多田恋一郎 Koiichiro TADA  
立石従寛 Jukan TATEISI  
野村 仁 Hitoshi NOMURA  
牧山雄平 Yuhei MAKIYAMA  
山本修路 Shuji YAMAMOTO

2019

5.12<sup>Sun</sup> - 5.19<sup>Sun</sup>

## 京都府立植物園 | Kyoto Botanical Gardens

〒606-0823 京都府京都市左京区下鴨半木町 | 9:00-18:30 (最終入園18:00まで)

入園料=一般:200円/高校生:150円/中学生以下無料

主催=京都府立植物園 | 特別協賛=The Chain Museum

協力=東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻、ROCA、モノシヤカ、KG+、MUZ ART PRODUCE、アートコートギャラリー

企画・キュレーション=高木 遊 (東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻修士課程) \*東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科修了要件特定課題研究

お問い合わせ=京都府立植物園 | Tel: 075-701-0141 / 「生きられた庭」展 企画・キュレーション=高木 遊 | Email: [ikiraretaniwa.info@gmail.com](mailto:ikiraretaniwa.info@gmail.com)

主催



京都府立植物園

特別協賛

The Chain Museum

協力

GA 東京藝術大学大学院  
国際芸術創造研究科  
アートプロデュース専攻

ROCA モノシヤカ

KG+

MUZ  
ART PRODUCE

Y&S ART MANAGEMENT, INC.  
ARTCOURT Gallery

# 生きられた庭 | Le Jardin Convivial

キュレーターによるガイドツアー形式の展覧会  
Curator-Guided Tour as Exhibition

## 展覧会概要

「生きられた庭」は京都府立植物園という「庭」を舞台に開催されるガイドツアー形式の展覧会です。多様なメディアを用いる7名の現代作家が、植物園の中で展示を行い、これをキュレーターが毎回異なるプログラムのツアーにして観客を案内します。絵画を庭園内に展示したり、噴水にオブジェを設置するなど、各作家の「庭」に対するアプローチはさまざまで、「庭」にあるものたちは作品によって活性化されたり、違った意味を持つようになっていきます。この毎回異なる組み合わせのツアーに参加することで、「庭」は全く別のいきいきとした様相を帯びて見えてきます。

タイトル「生きられた庭」とは、私たち人間の存在だけにとどまらない、多様な生命の営みが「庭」という空間に宿される様相を表しています。そこでは表現者が生み出す芸術空間と、生命が萌む生態系の空間の邂逅が生じます。それは展示装置としての美術館と植物園の出会いであり、人工と自然の重なり合いであり、そして事物と生命の交差でもあります。本展はこうした多元的な関係性の中で、混沌とする現代社会という「生態系」の一部として存在する人間を思考する空間を描き出すのです。

また、1日7回行われる「ナビゲーション」と名付けられた毎回異なる内容のガイドツアーは「庭」に生起する出来事に物語を与えます。この展覧会としてのツアーの様子は映像やテキストの形で「ドキュメンテーション」としてウェブサイト上に公開されます。本展覧会はこの「ナビゲーション」と「ドキュメンテーション」を介することで、あらゆる事象に紐づく時間／空間に新たな物語を紡ぎ出し、現代における「生きられた空間」について再考する試みです。

# 生きられた庭 | Le Jardin Convivial

キュレーターによるガイドツアー形式の展覧会  
Curator-Guided Tour as Exhibition

## 出品作家(7名)



石毛健太《FRAKTA》2019

### 石毛健太 | Kenta Ishige

1994年神奈川県生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科 絵画専攻壁画研究領域修了。美術家、インディペンデント・キュレーター、DJとして活動。既存の物語の読み替えや都市論の再考等をテーマに制作している。主な展示に「カーゴ・カルト in KENPOKU」(茨城、2017)、「Escape from the sea」(National Visual Arts Gallery、クアラルンプール、2017)、「変容する周辺 近郊、団地」(東京、2018)



高橋銃《BIG CRUNCH》2017

### 高橋銃 | Takahashi Sen

1992年東京都生まれ。2018年東京藝術大学彫刻科卒業。近現代彫刻の保存・修復を学んだ経験を基に、人間存在の営為をテーマに彫刻、映像、インスタレーションなど様々なメディアで制作を展開している。主な展示に2016年「COLLAPSE EVE」(旧豊島区役所、東京)、2017年「牛窓・亜細亜藝術交流祭2017」(岡山県瀬戸内市、尻海地区)、主な修復に2014年「Rusty Ground」(高松次郎)、2016年吉原治良、立体作品3点(作品名不明)など。



多田恋一朗《窓から差した君の原理》2018

### 多田恋一朗 | Koiichiro Tada

1992年東京都生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科 絵画専攻 油画技法材料研究領域修了。SNSなどに代表されるような肉体不在の人格をテーマに、絵画を中心に表現を展開している。主な個展に(TAKU SOMETANI GALLERY、2018)、「次元打ち鳴らす君のBEAT」(Bambinart Gallery、2016)、「春夏秋冬gallery、2015) 主なグループ展に「絵画・運動(ラフ次元)」(四谷未確認スタジオ、2018)、「LANDSCAPE:detour for White Base」(Bambinart Gallery、2017)、「牛窓・亜細亜藝術交流祭」(瀬戸内市尻海地区、2017)、「ストレンジャーによろしく」(名古屋市民ギャラリー矢田、2015)



立石従寛《Comparative Study Of Upload Time—Sunrise》2018

### 立石従寛 | Jukan Tateisi

1986年アメリカ合衆国、シカゴ生まれ。Royal College of Art、Fine Art Photography 修士課程在籍。ノンヒューマン・アーティストとして、写真、サウンドなどの表現を、人工ニューラルネットワーク、立体音響の技術を用いたインスタレーション作品を制作している。主な個展に「その—それら」(KG+ Award、2018)、代表作に「ことばおどる」(NHK BSスペシャル、2019)など、Royal College of Artでの「It can sing; it can compose; it can shoot」で論文首席。

# 生きられた庭 | Le Jardin Convivial

キュレーターによるガイドツアー形式の展覧会  
Curator-Guided Tour as Exhibition

## 出品作家(7名)



野村仁 (Tardiology: 岐阜) 1995

### 野村仁 | Hitoshi Nomura

1945年兵庫県生まれ。1969年京都市立美術大学専攻科修了。  
1960年代末から、写真を表現媒体として用い、目に見えぬ「重力」や「時間」などを作品の中に顕在化させてきた。現在、人知を超えたこの世界の秩序への深い考察を、様々なメディアを用い、表現を展開している。本展では、《Tardiology》(1968-1969)の野外での再制作を行う。主な個展に「光と地の時間」(アートコートギャラリー、2017)、「宇宙開闢年表—Cosmic Sensibilityが成し遂げた3つのステージ 又は 限りなく遠い記憶」(アートコートギャラリー、2018)



牧山雄平 (Still life (Valentine, IN UTERO)) 2017

### 牧山雄平 | Yuhei Makiyama

1992年京都府生まれ。2018年東京藝術大学大学院美術研究科  
絵画専攻壁画研究領域修了。小豆島在住。絵画を日常と密接しているものと捉え、  
環境を自作することから作品が出発している。実世界が映し出す景色とそれを描きみえてくる  
景色の往還を油絵によって残している。主な展示に、「Up in the air」(Gallery b.TOKYO、2018)



山本修路 (東屋) 2018

### 山本修路 | Shuji Yamamoto

1979年東京都生まれ。2005年多摩美術大学卒業。「大自然と人間」をテーマに、  
酒造り、メープルシロップ作り、お茶作り、小屋作り、旅などの活動をしている。  
主なイタヤカエデの樹液採取地は、十和田湖畔。

# 生きられた庭 | Le Jardin Convivial

キュレーターによるガイドツアー形式の展覧会  
Curator-Guided Tour as Exhibition

## ナビゲーション

本展は「ナビゲーション」と名付けられたキュレーターによる毎回異なる内容のガイドツアー（1日7回、全49回）を実施します。この「ナビゲーション」は「庭」で巻き起こる様々な出来事に物語を与えます。それらの出来事とは、表現者が生み出す芸術空間と生命が萌む生態系の空間の邂逅であり、美術館と植物園の出会いであり、人工と自然の重なり合いであり、そして事物と生命の交差でもあります。これらの諸要素を繋ぐことで、「ナビゲーション」は新たなナラティブを紡ぎ出すのです。

5月12日[日]–5月18日[土]

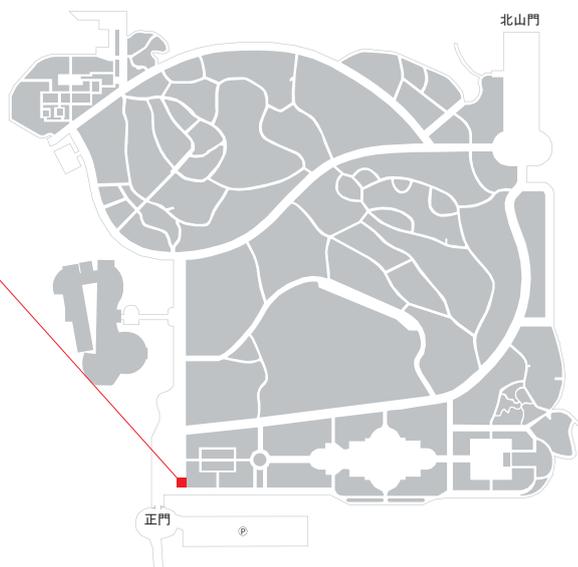
上記7日間にて、各日7回実施（1回50分程度）

[タイムスケジュール]

1. 10:00–10:50 / 2. 11:00–11:50 / 3. 12:00–12:50 /
4. 14:00–14:50 / 5. 15:00–15:50 / 6. 16:00–16:50 / 7. 17:00–17:50

[集合場所]

京都府立植物園正門を  
入った右手の東屋



## クロージングイベント

5月19日[日]

詳細はウェブサイトにおいて告知予定

ウェブサイト | <https://ikiraretaniwa.geidai.ac.jp>

# 生きられた庭 | Le Jardin Convivial

キュレーターによるガイドツアー形式の展覧会  
Curator-Guided Tour as Exhibition

## ドキュメンテーション

展覧会としてのガイドツアーの様子は多様なメディアを用い記録され、「ドキュメンテーション」としてウェブサイト上に公開されます。本展は、映像、写真、テキストの形で、記録されます。「ドキュメンテーション」は「庭」に生起する物語を拡張し、継続する役割を担います。



## Navigation / Documentation

展覧会としてのガイドツアーの様子は映像、写真によって記録され、会期中毎日ウェブサイト上に更新されます。



## Monosyaka / Documentation

京都を中心に活動する小説家、批評家、詩人といった6人の物書きによる季刊同人誌「モノシャカ」とのコラボレーションです。「庭」に関する新たな物語を紡ぎ出します。

## ArtSticker / Documentation

ArtStickerは作家を支援するアプリケーションです。  
作品制作過程などを記録し、4月下旬より公開します。

### \*ArtStickerについて

ArtStickerはアーティストに直接支援をおくりながら、自身のアート作品への興味・関心を気軽に残すことができるアプリです。アプリ内には様々なジャンルのアートワークを掲載し、作品をより深く知るための情報も詳しく紹介。それらの作品に、金額に応じた色の「スティッカー」を貼ることで、アーティストをサポートできる仕組みです。サポートのあかしとして、作品情報の下に自分の名前を刻むことができ、アーティストからのお知らせを受け取れるようになります。また、作品についてのレビューも書けるようになります。アートコレクターのようにコレクションを増やし、よりスキになる。そんな楽しみ方も可能です。

[ダウンロードはこちらより](#)

ArtSticker iOS用 オープンベータ版:

<https://artsticker.app/>



# 生きられた庭 | Le Jardin Convivial

キュレーターによるガイドツアー形式の展覧会  
Curator-Guided Tour as Exhibition

会期:

2019年5月12日[日]–5月19日[日] 9:00–18:30 (最終入園18:00まで)

会場:

京都府立植物園 | Kyoto Botanical Gardens

〒606-0823 京都府京都市左京区下鴨半木町

入園料:

一般 = 200円 / 高校生 = 150円 / 中学生以下無料

主催:

京都府立植物園

特別協賛:

The Chain Museum

協力:

東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻、ROCA、  
モノジャカ、KG+、MUZ ART PRODUCE、アートコートギャラリー

アクセス:

JR京都駅 (近鉄「京都駅」、阪急「烏丸駅」) から京都市営地下鉄「北山駅」下車  
3番出口すぐ、または「北大路駅」下車3番出口を東へ徒歩約10分  
京都市バス「植物園前」下車徒歩5分

企画・キュレーション:

高木 遊 (東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻修士課程)

\*東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科修了要件特定課題研究

お問い合わせ:

京都府立植物園 = Tel: 075-701-0141 /

「生きられた庭」展 企画・キュレーション =

高木 遊 | Email: [ikiraretaniwa.info@gmail.com](mailto:ikiraretaniwa.info@gmail.com)

広報お問い合わせ:

「生きられた庭」展 企画・キュレーション =

高木 遊 | Email: [ikiraretaniwa.info@gmail.com](mailto:ikiraretaniwa.info@gmail.com)